

いま、例文を見つめ直す： 実りある対話を目指して

2025年11月8日（土）14:45-17:30

九州大学 伊都キャンパス〔イーストゾーン〕

（〒819-0395 福岡市西区元岡744）

大講義室Ⅱ

言語学と一口に言っても、理論やアプローチ、研究対象により、様々な立場が存在する。そのため、言語学者の間で、基本的な事柄について意見の一致が見られないことも珍しくない。しかし、様々な立場があったとしても、言語学の議論の中心にあるのは例文であると言ってよいだろう。ここでいう「例文」は語あるいは形態素のレベルから談話レベルまでのあらゆるサイズのものを指し、作例だけでなく、自然談話などの実例を含む。専門化・細分化が進む言語学だが、例文に焦点を当てることは実りある対話の契機となるように思われる。

本シンポジウムでは、多様なバックグラウンドを持つ4名の講師を招き、それぞれの立場から例文の位置づけや収集方法、作例・実例に対する考え方などを紹介していただき、ともすれば当たり前の存在とされがちな例文を見つめ直す機会としたい。講師は、フィールドワークを通じてモンゴル語文法を記述する梅谷博之氏、認知文法の使用基盤モデルの観点から実例に基づく英語研究を進める平沢慎也氏、心の中の言語知識を研究する資料としての例文、コーパスデータ等の信頼性、妥当性について検討する大名力氏、日英語の会話データをもとに談話スタイルの対照研究を行う岩田祐子氏である。例文を通して互いの立場への理解を深め、健全な議論が行われる場を目指す。

司会・趣旨説明：野中 大輔（工学院大学）

講師：梅谷 博之（武蔵野大学）

「フィールド言語学における例文の役割」

講師：平沢 慎也（慶應義塾大学）

「認知文法と例文：Langackerへの（潜在的）誤解を考える」

講師：大名 力（名古屋大学）

「コーパスに基づく定量データの信頼性と解釈の妥当性について」

講師：岩田 祐子（明治大学）

「発話の意味はコンテキストで決まる：談話研究の面白さと難しさ」

※日本英語学会第43回大会会期中の開催ですが、
本公開特別シンポジウムはどなたでも入場できます

お問い合わせ

大会情報（日本英語学会ウェブサイト）：<https://elsj.jp/meeting/>

日本英語学会事務局：elsj-info@kaitakusha.co.jp

オンライン参加の申込

